

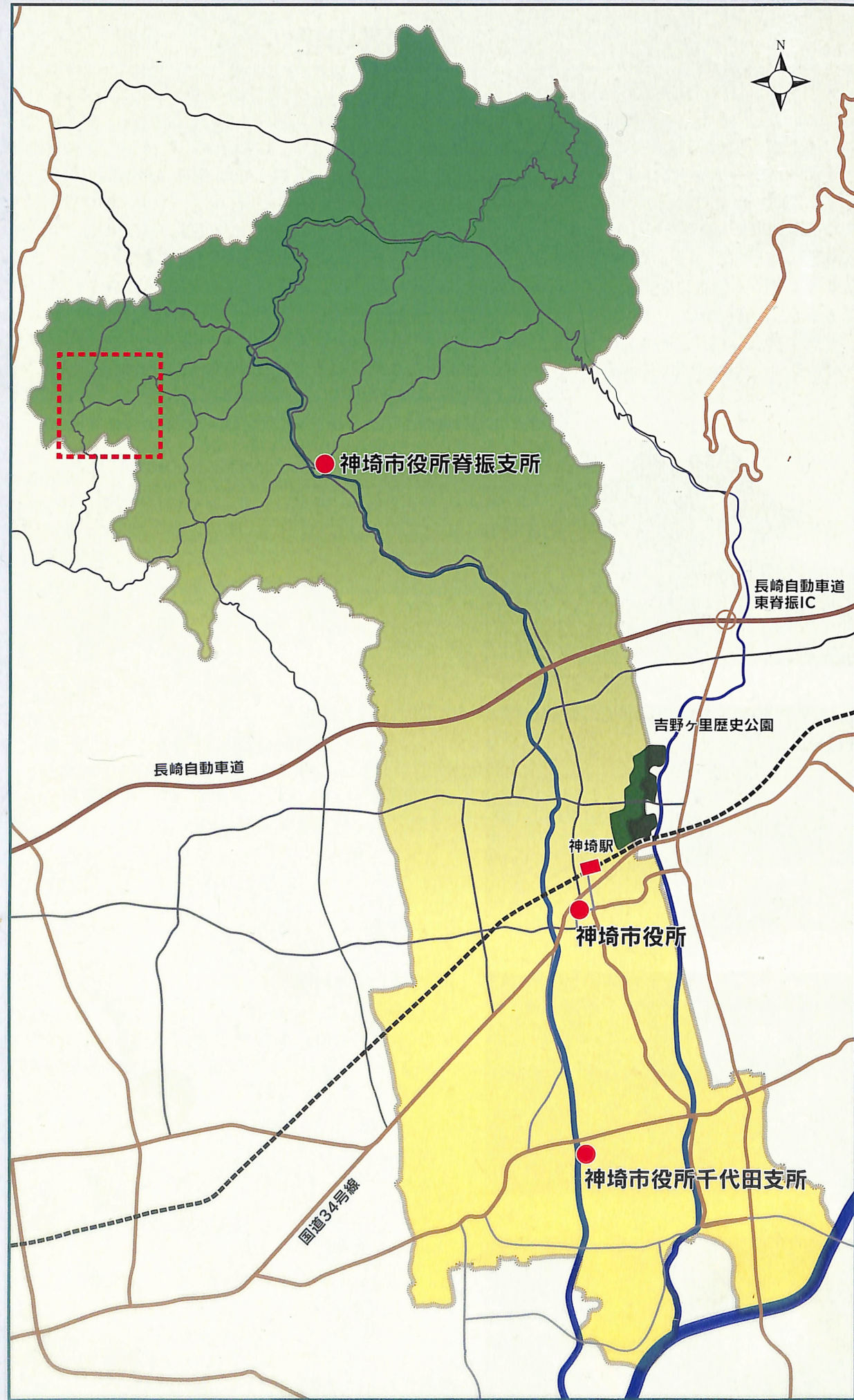
水・人・歴史がおりなす

# かんざきを歩こう 散策マップ

発行

神崎市役所 政策推進室

総務企画部  
0952(37)0153



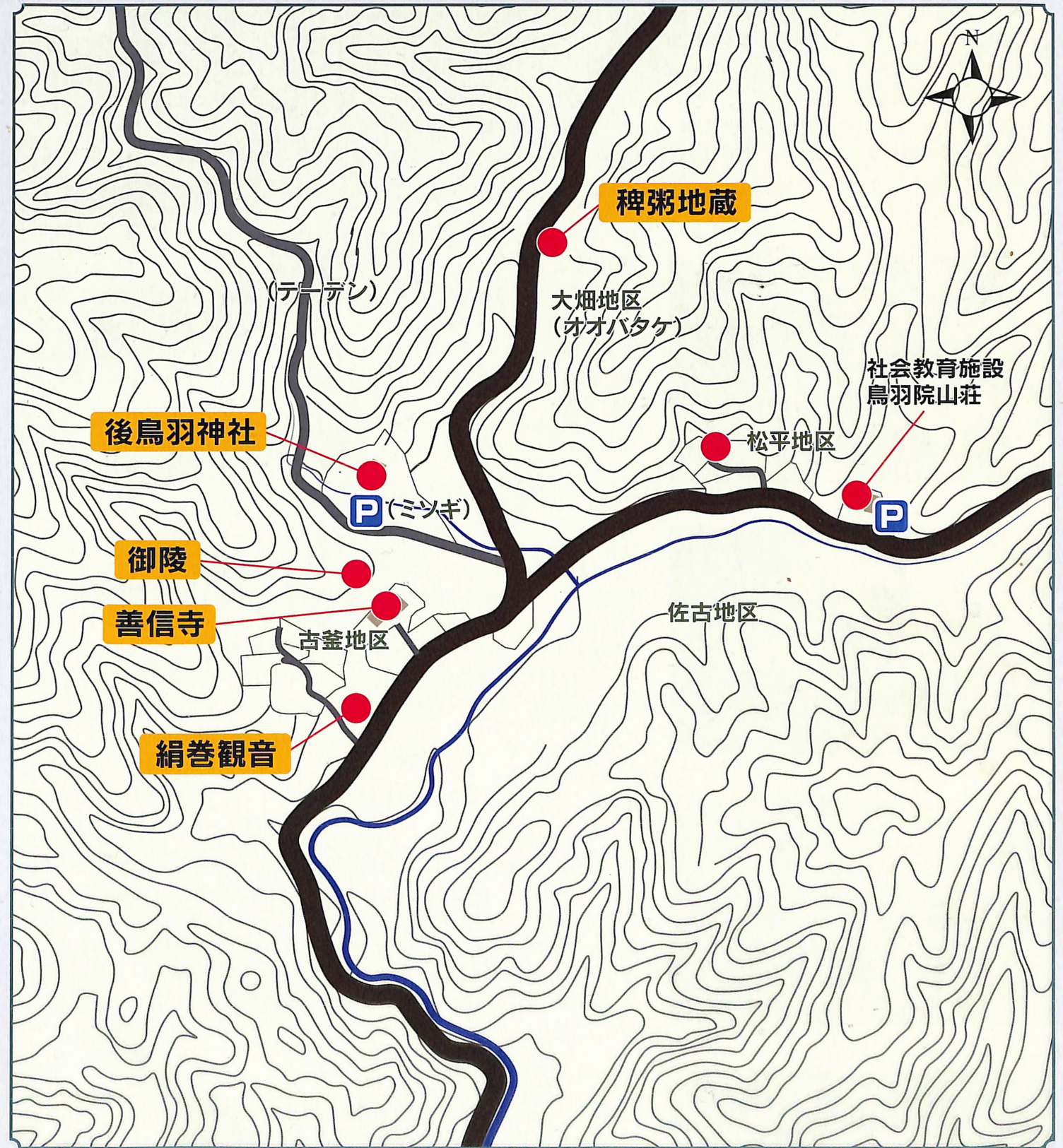
**No.14 散策マップの位置と範囲**

かんざきを歩こう

No.14

後鳥羽上皇伝説の里

# 鳥羽院地区 散策マップ



### 駐車場

◆ 鳥羽院山荘(5台ほど)・鳥羽院公園(3台ほど)・善信寺(数台)に駐車できます。



## 鳥羽院に伝えられる「後鳥羽上皇伝説」

昔、この山里に五・六人の供人を連れた都人らしい旅人の一行がたどりついた。はるばると歩いてきたらしく旅の衣も色あせて旅のやつれが見えた。一行は道端の野石に腰かけて何か話しあっていたが、一軒の小さな百姓家を見つけるとその家の表を訪れた。中を覗くと薄暗い土間の隅で、一人の老婆が炉を焚いていた。何か煮物をしているらしく、大鍋の中からは、おいしそうなおいが漂っていた。

供人の一人が、「われらは、都から来た旅の者、はなはだ申し兼ねるが、食事の用意はできまいか」と言葉丁寧に頼んだ。老婆は都人らしい人々の口にあいそうな食事の用意などできそうにないので、「あいにく、都のひとにさしあげるような食べ物の用意はできません。あるものは杣人が食べる稗の粥ばかりでございます。」と申し上げた。「何ものにも結構、あれにおられるは都のさる高貴な方」と頼まれた。老婆は早速、稗粥を温めて差上げたところ、一行は何杯もお代わりをした。

この一行は、隠岐島から密かにこの地を訪れた後鳥羽上皇の一行であったと伝えられています。

稗粥で身を温められた上皇は、「かくばかり身のあたたまる草の名をいかでか人は稗というらむ」と謳われたという。

(『脊振村史』より)



### 稗粥地蔵

後鳥羽上皇が隠岐島からお供の者とともに密かにこの地に遷幸された時、冬の寒さ厳しいところで、里人のおばあさんが粥を炊いていました。その粥を御馳走になり「かくばかり身のあたたまる草の名をいかでか人は稗と言うらむ」と詠み賜われたと伝えられています。この稗粥を献げた伝承を伝える地蔵です。



### 善信寺

元、教心寺で天台宗の寺でした。承久の乱により隠岐島に流された後鳥羽上皇が密かに遷幸を希望され、当地を領地とする上皇の随臣西川左衛門大輔源家房が左金入道らとともに船を仕立てて当地にお連れし、教心寺を仮宮としたと伝える寺です。後鳥羽上皇行幸後禅宗となり、後真宗に改宗。「心」を「信」に改め教信寺となります。昭和31年に完成した北山ダム建設により三瀬村にあった正善寺を合併し、現在の善信寺となっています。



### 山陵

善信寺の裏山に、後鳥羽上皇の墓として「山陵」と呼ばれる塚があります。大正元年12月20日、墓の清掃の際に石棺が発見され、幅六寸(約22cm)、長さ一尺一寸(約41cm)、高さ九寸(約34cm)で、蓋石の内部に「御白骨二枚西河左衛門太夫奉拜」と書かれていました。内部には、頭蓋骨の頭頂部と上顎が残されていたと記録され、石棺は、寺の裏山の御陵墓に埋葬され、高さ2.3m・周囲約15mで周囲には小石を積み土盛りをする御陵を築くと記録されています。現在は、周辺一帯整備されています。



### 後鳥羽神社

後鳥羽上皇を祀る神社です。当地区は「鳥羽院」地名とともに、上皇が宮とした教信寺、後鳥羽上皇を葬ったとされる山陵が所在し、「ていでん」「みそぎ」「大畑」などの地名や、上皇が当地区を訪れた伝承を伝える「稗かゆのお地蔵さん」など後鳥羽上皇に因む伝承があります。

## 絹巻の里

鳥羽院地区は、昔「絹巻の里」と呼ばれていました。この絹巻の里は、父母とひとりの娘が住んでいましたが、実母がなくなり継母に養われていました。その継母に邪険にされ、いじめられるので、娘は毎日母を偲んで泣き暮らしていました。その姿を見た継母は娘が織っていた絹糸巻を背中に結び付けて家を追い出してしまったのです。追い出された娘は、松林の中の灯火がともる家を訪れると、一人の女房に招き入れられ、ここで暮らすようになりました。数年経ち、娘は父恋しくなり故郷へ帰りたいたと告げます。これを聞いた女房は、私は実は観音菩薩の化身ですと告げ、生前の実母の信心のたまものでありこのことを忘れないで、今後父にも継母にも孝行をなさいと告げ、観音菩薩の姿となり姿を消していきました。家に帰った娘は、今までのできごとを父に語ります。父と娘は、娘が住んでいたという家を訪ねましたが、そこには家はなく白絹が無数にひき張られ、継母が付けた巻板もそのまま残り、不思議に思い、貼られていた白絹をいただいて娘と家に帰りました。それからは、娘は父と継母に親孝行をし、継母も改心して娘をかわいがり、円満に暮らすようになっていきました。一家は、観音像を作り、巻板をその観音像の後ろに立てかけて朝夕拝礼しました。そのことが、遠近に伝えられ、この観音に参詣するものが多くなり、親不孝者がこの観音に願をかけると親子の仲が良くなると言い伝えられて、それから、この里を絹巻の里というようになったと伝えられています。(『脊振村史』より)



### 絹巻観音

鳥羽院は、元「絹巻の里」と呼ばれていました。善信寺の南東に座像の観音像が祀られています。この絹巻観音は、親孝行や家内安全などを祈願する人でお参りに来る人が多くいたと伝えられています。現在、佐賀市高木瀬の永瀬にある長瀬天満宮境内に絹巻観音が祀られていますが、絹巻の里の観音が佐賀市長瀬に祀られたと伝えられています。



### 鳥羽院山荘と湧水

旧脊振小学校鳥羽院分校の校舎を改修した、宿泊ができる研修施設です。囲炉裏がある団らん室と和室・調理室・浴室などがあり、自炊による宿泊研修などに利用されています。また、地下約50mから汲み上げられる水は、鳥羽院の湧水として知られています。



### 後鳥羽上皇命日祭

鳥羽院地区には、後鳥羽上皇に由来する伝承や神社などが残されています。上皇を祀る後鳥羽神社では、上皇の命日にあたる2月22日に後鳥羽上皇命日祭が行われています。当地に伝わる後鳥羽上皇伝承の一端を知ることのできる祭典です。



### 鳥羽院古釜地区の百手祭

鳥羽院地区の古釜に伝承されている百手祭です。後鳥羽神社境内で行われ、一人三本の矢を射、年若いをする行事です。的は、六角形で表に三日月・裏に鬼と書いた紙が貼られています。この祭りの日だけ作られる料理(お供え物)や開催日など伝統的な形をよく残した祭です。わらびが取れる時期でわらび祭りともいわれています。